

# FJC 協会、せたふく共催 タウンミーティング in せたがや(2014/05/17)

## 「震災から命を守るぞ！」

5月17日(土)、40人ほどの参加者が下北沢に集まり、標記タウンミーティングが開催されました。その報告です。

実際の大震災の状況を踏まえた防災についての貴重なお話を伺いました。

過去の大震災では家屋・家具の倒壊による圧迫死が多かったそうで、その対策と世田谷区の助成制度が紹介されました。また、災害時に一番困るのは食事よりもトイレとのことで、仮設トイレ作りを実習しました。

以下、気になったことの簡単なメモです。

### 1. 震災から命を守るぞ (大脇秀雄氏)

- ・震災から身を守る自助対策として、①建物の耐震、②家具の配置、③家具の固定 が重要。
- ・②の家具の配置は、建物の揺れる方向(家具の扉を揺れる方向に向けない)、避難路の確保(ドア位置に倒れ込まないように)等を意識する。
- ・③の家具の固定は、家具の転倒防止に天井との間に段ボールを挟むのもよい方法。



- ・演習として、「危ないところは？」



実演を交えた大脇氏の講演。

あるマンションの一室、「危ないところは？」  
ベッドの上の絵画、扉の前の家具…。たくさんあって住めなくなりそう。

## 2. 家具固定・防災グッズの紹介（菊池顕太郎氏）

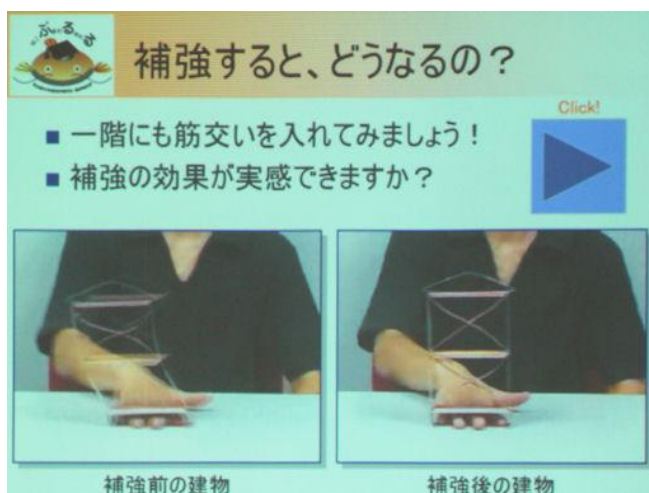
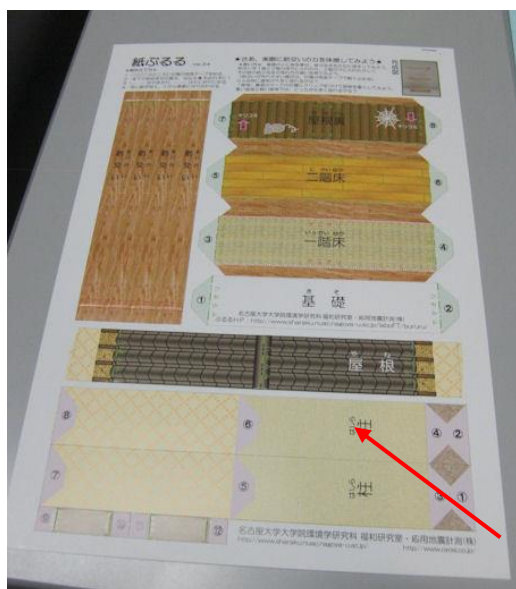
- ・ 突っ張り棒は家具が手前に動いたら外れる。家具の下にくさび形シートの併用、あるいはネジ止めがよい。
- ・ キッチンが一番危ない。滑り止めシート、揺れを感じると扉にロックされるもの、飛散防止フィルムが有効。
- ・ その他、数多くの防災グッズの紹介があった。



## 3. 世田谷区の耐震助成制度情報(堀越広志氏)

- ・ 阪神・淡路大震災では、家屋・家具の倒壊による圧迫死が 88%。従って、家屋・家具の耐震対策が重要。
- ・ 地震に弱い建物の特徴を実験しながら楽しく理解できるペーパークラフト教材「紙ぶるる」の紹介がありました。

<http://www.sharaku.nuac.nagoya-u.ac.jp/laboFT/bururu/>



ペーパークラフト教材「紙ぶるる」。2階建て住宅を組み立て、実験しながら楽しく理解できる。

- ・ 世田谷区の助成は、  
①家屋の耐震診断・耐震化の支援(改修工事の上限 100 万円)、②家具転倒防止器具取付の支援(上限 2 万円)、③耐震シェルター、耐震ベッド設置費用の助成(上限 30 万円)。
- ・ 平均的な改修工事費用は 272 万円で、このうち 100 万円が助成。
- ・ 既存不適格(建築時には適法だったが現状の法律には適合していない)の家屋も助成の対象としている。

#### 4. 助成制度を使った耐震改修 (松尾 実氏)

- ・耐震診断を行ない、構造評点 1.0 未満が耐震補強工事の助成の対象となる。
- ・補強方法には、①壁の補強(構造用合板、筋交い)、②基礎の補強(鉄筋コンクリート基礎を添える場合が多い)、③屋根軽量化(壁の補強では不十分の場合に採用、瓦屋根の 3 割の地震力が軽減される)。

#### 5. 首都圏直下型地震の被害想定と防災 (菊池顕太郎氏)

- ・出火原因の第一位は、電気による発熱出火。常時通電している家電製品が危ない。地震時にブレーカーを遮断するグッズがあるので使用するのも一方法。
- ・道路の大渋滞、重傷者優先 → 救急車は来られない。止血や応急処置は身近な人が行なう。
- ・最初に困ったのはトイレ(断水、下水管の破断)。食事よりもトイレ。避難所のトイレも大渋滞。  
→ 自分で仮設トイレを作る(ペットボトル)。携帯トイレ袋を用意する。
- ・現金 1 人 10 万円程度用意する。ペットボトル 1 本 1 万円！！

#### 6. トイレ工作&防災グッズ

- ・仮設トイレ(簡易オシッコ回収容器)の製作

参加者全員が予め用意して頂いたペットボトルで仮設トイレを製作した。2 リットルペットボトルに油性ペンで線を引き、カット。用を足したオシッコは別のキャップ付きのペットボトルに移し替え保存する。



グループに分かれ、各自、仮設トイレを作ってみる。

ペットボトルを2つにカット。キャップ側はスコップ、簡易的な漉し器、漏斗などに使える。



以上 多賀